※令和４年度以降入学生用

学校番号	３０１６

令和５年度　数学科

教科	数学科	科目	数学Ａ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	最新「数学Ａ」　（数研出版）						
副教材等	自主製作教材						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業は集中して聞き、ノートをきちんと取りましょう。自ら考え、積極的に発表や質問を行い、意欲的に取り組みましょう。
・問題は、途中式や考え方も書きましょう。各自で答え合わせをしてください。間違ったところは、答えのみを訂正するのでなく、つまずいた部分から書き写し、考え方を理解しましょう。
・提出物は、指示通りきちんとやり、期限を守って提出しましょう。期限を過ぎれば、受け取りません。
・できることを繰り返すことで本当の力になります。宿題や課題をやるだけでなく、予習や復習など自ら学ぶことが大事です。

２　学習の到達目標

図形の性質，場合の数と確率について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見いだし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	1章　場合の数	1節　場合の数	a：集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができる。要素を書き並べて表して，集合の要素の個数を求めることができる。 b：集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができる。 c：集合を考えることで，日常的な事柄などを，集合の要素の個数として数学的に数えようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト 提出ノート	提出ノート 振り返り シート 観察
2学期		2節　確率	a：確率の意味を理解している。確率の定義に基づき，事象の確率を求めることができる。 b：試行の結果を事象としてとらえ，事象を既知の集合と結びつけて考えることができる。 c：和事象，積事象，排反，空事象，確率の基本性質を集合と関連づけて考察しようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト 提出ノート	提出ノート 振り返り シート 観察
3学期	2章　図形の性質	1節　三角形の性質 2節　円の性質 3節　作図 4節　空間図形	a：平行線の性質を用いて，線分の長さを求めることができる。円周角の定理を用いて，角の大きさを求めることができる。 b：作図の各過程において，平面図形のどの性質を用いているかを考察できる。 c：数学で扱う作図と，日常において図形をかくことでは，何が違うか考えてみようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト 提出ノート	提出ノート 振り返り シート 観察
	3章　数学と人間の活動	1節　約数と倍数 2節　1次不定方程式	a：公約数，最大公約数の意味を理解し，それらを求めることができる。 b：問題解決の過程を振り返って，割り算の余りの性質について考察を深めることができる。 c：日常生活における具体的な事象の考察に，約数と倍数の考えを活用しようとする	定期考査 確認テスト	定期考査 確認テスト 提出ノート	提出ノート 振り返り シート 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度